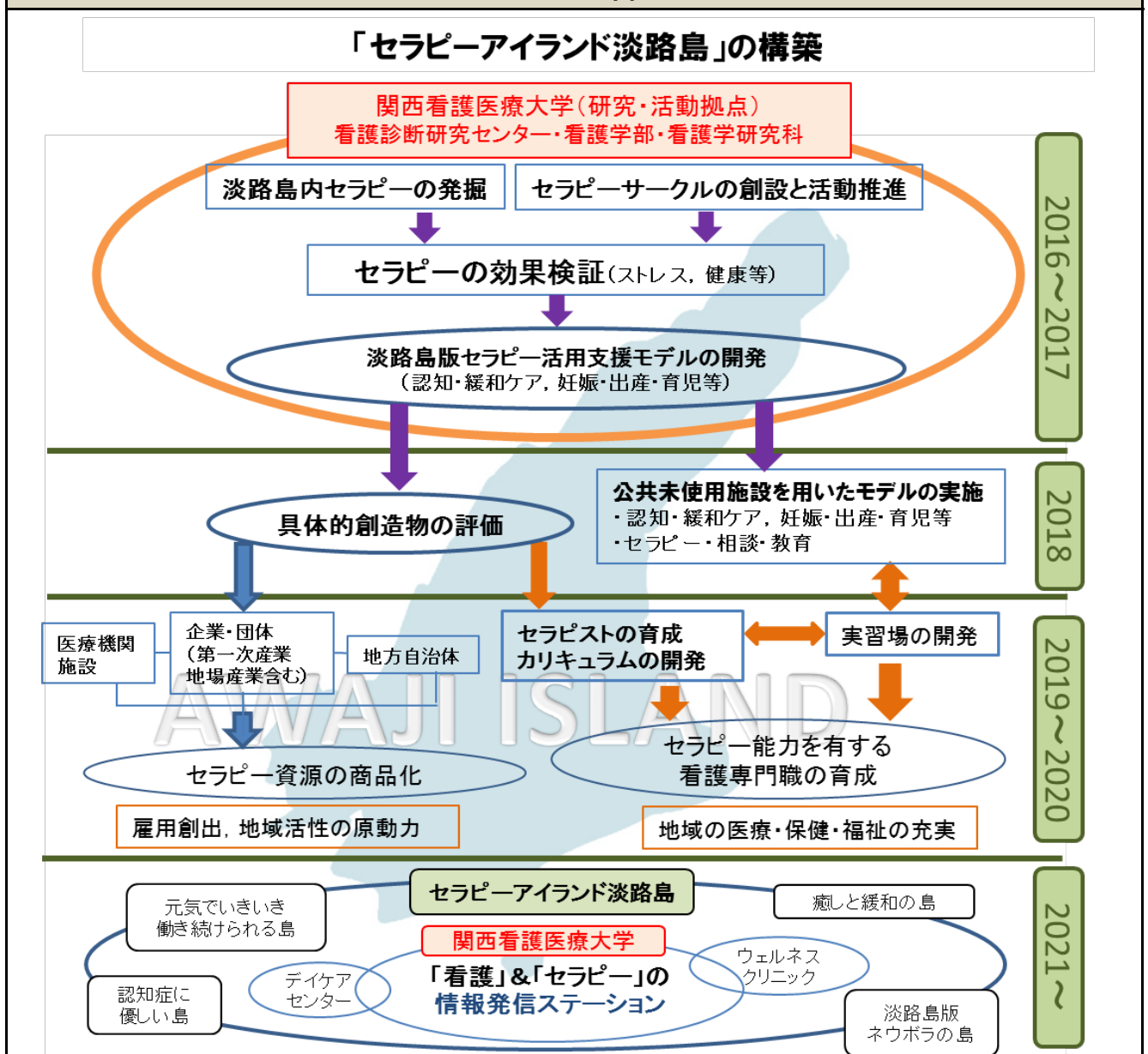


平成28年度私立大学研究ブランディング事業計画書

1. 概要（1ページ以内）

学校法人番号	281026	学校法人名	関西看護医療大学		
大学名	関西看護医療大学				
事業名	セラピーアイランド淡路島の構築を基盤とした地域活性化と看護教育カリキュラム開発に向けた研究拠点の創設				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	340人
参画組織	看護学部, 看護学研究科, 看護診断研究センター				
審査希望分野	人文・社会系		理工・情報系	生物・医歯系	○
事業概要	本事業の目的は、行政・市民・支援団体と一体となり、日本遺産淡路島の資源（ヒト・文化・自然）を活用した「セラピーアイランド淡路島」構築の研究・活動拠点を本学に創設することである。その事業活動を基盤として、人的・文化交流を推進することで地域住民の健康増進を図り、地域経済の活性化に寄与する。また、本事業の研究活動成果をもとにセラピーと看護を融合した看護実践能力向上につながるカリキュラムを開発する。				

イメージ図



2. 事業内容（2ページ以内）

（1）事業目的

<事業目的>

本事業は、身体・心理・精神の改善をもたらす、人・自然・文化を介在した治療や療法を「セラピー」と定義し、以下を目的として展開する。

- 1) 本学を研究拠点とし、日本遺産淡路島の「セラピー」資源の発掘とその効果および実施方法を健康科学の側面から研究開発する。
- 2) 本学において「セラピー」の提供を含めた妊娠・出産・育児・認知症予防・緩和ケア等のセラピー活用支援モデルの開発及び島内の公共未使用施設を拠点としたモデルの実施とその効果の検証を行う。
- 3) 淡路島ブランドのセラピー資源の商品開発とその効果の検討を行う。
- 4) セラピーと看護を融合したより独創的な看護教育カリキュラムを開発し、その成果を全国の看護教育機関等に発信する。

<本事業の背景>

淡路島は、伝統的地場産業としてのお香の生産が行われている「香りの島」であり、花や緑で人を癒す「園芸の島」であり、かつ新鮮な山海の幸が豊富な「御食国（みけつくに）」でもある。住民は年間を通して美しい自然環境に触れ、新鮮な山海の幸・温泉・マリンスポーツ・サイクリング・フィッシング等を楽しんでいる。

しかしながら、少子高齢化が進み、若者の都会への流出が増加して過疎地域ともなっている。これらの状況に対し淡路島3市（洲本市・南あわじ市・淡路市）では、まちおこし対策・子育て支援・雇用対策等、様々な政策を展開しているが、こうした課題の解決には至っていない。

このような現状の中で、淡路島のセラピー資源を活用して健康面から課題解決に向けた活動・研究を推進するため、学長である江川隆子を中心に2014年4月に「住民と共に創るセラピーアイランド 日本健康・環境セラピー学会」を創設した。2016年よりこの学会の目的や活動をさらに拡大するために、本学の看護診断研究センターの活動として位置付け、島内のセラピー資源の発掘や、健康関連情報の発信、セラピー体験の場の提供等を行っている。こうしたことから、本事業を行うための活動基盤をすでに有しており、地方自治体、地域住民、医療機関や企業、団体等との連携・協力支援体制も整っている。

一方、看護系大学の急増と医療の多様化に伴い、実習の場が著しく不足しており、看護学実習の質の担保が求められている。各大学では実習場の確保だけではなく、それぞれの特性を活かした独自の实習への取り組みがなされており、本学でも、地域住民（看護教育ボランティア）の参画を得た演習や実習などの地域志向型の看護実践力を育成するための実習場の開拓を進めている。さらに、本学では地域特性や資源を活かした、独創的かつ看護学実習の質を担保した看護教育カリキュラムの構築を目指している。

（2）期待される研究成果

<期待される成果と評価方法>

- 1) 発掘されたセラピー資源の効果の検証
 成果：セラピー効果の提示（セラピーマップの作成等）
 評価指標：気分尺度、心理的ストレス尺度、主観的健康感尺度等
- 2) 本学施設および島内の公共未使用施設を拠点としたセラピー活用支援モデルの構築とその効果の検証
 成果：セラピー活用支援モデル
 評価指標：住民の活用実績、気分尺度、心理的ストレス尺度、主観的健康感尺度等
- 3) セラピー関連商品の開発
 成果：地元企業・団体等と協働開発した淡路島ブランドのセラピー商品
 評価指標：住民モニターの評価（気分尺度、心理的ストレス尺度、主観的健康感尺度等）
- 4) セラピーと看護を融合した看護教育カリキュラムの開発
 成果：看護教育カリキュラム
 評価指標：PROGテスト、自己効力感尺度、コミュニケーションスキル尺度等

(3) ブランディングの取組

<ブランド化と大学運営>

セラピーに関わる研究は、これまで多くの報告がなされているが、長期的・多角的にセラピー効果に着目したものは少ない。本事業は「関西看護医療大学」が活動の中核となり、5年間という長期にわたって、島内の「企業・団体（地場産業、第一次産業含む）」「医療機関・施設」「地域住民」「地方自治体」「NPO法人」などの多様な人材が協働し、淡路島から掘り起こされたセラピー効果をもたらす地域資源とその効果を多角的に分析することで、今後の商品開発や地域の医療・保健・福祉の充実に活かそうとするものである。

また、本事業で得られた研究成果を本学の看護学教育、特に看護学実習の場に反映させることで、看護実践能力の育成、ひいてはセラピーと看護を融合したより独創的な看護教育カリキュラムの開発とセラピー能力を有する看護専門職者の育成に活かせるものとする。

このような一連の取り組みは、淡路島全域の医療・保健・福祉の充実に寄与することが期待されるだけでなく、淡路島内全域の地域活性の原動力としての役割を担うことをも期待されるものである。

穏やかな気候に恵まれ、緑豊かな山々と美しい瀬戸内海に囲まれた日本遺産淡路島に立地する本学が、「セラピー」を大学ブランドとして取り扱うことで、より明確に「セラピーのある大学」としてのイメージが展開されるとともに、ブランドを体現する人材と情報を地域に発信できる大学づくりが実現される。

<広報活動>

1. 広く活動を周知させるために地方自治体と連携するなどした、この活動を表すシンボルマークの住民に対する公募
2. シンボルマークを活用した大学広報活動（ホームページ、大学案内、広告等）の展開
3. 開発された商品の市場販売
4. セミナー・研究会等の開催
5. セミナー・学会等での成果の発表
6. セラピーアイランド淡路島に関するリーフレット等の作成、配布

3. 事業実施体制（1ページ以内）

本事業は関西看護医療大学が研究拠点として中心となり、学外の地方自治体、医療機関・施設、地域住民、企業・団体（地場産業・第一次産業含む）、NPO等と協働した組織体制である。

1) 関西看護医療大学の実施体制

- (1) 全学的な研究実施体制として学長のリーダーシップの下、「研究推進委員会」（学長，研究科長，学部長，学科長，図書館長，看護診断研究センター長等）において，本事業の運営や研究支援体制等について審議・決定し，着実に実施する。
- (2) 全学的な研究支援体制として，研究支援を担当する職員を配置した「研究支援プロジェクトチーム」（経営企画課長，企画係，総務係）において，本事業に関する外部機関・団体等との連絡・調整，会計・契約事務等，研究実施主体へのサポートを行う。
- (3) 研究実施主体として，「看護学部・研究科，看護診断研究センター」が相互に連携を図り，事業の企画，実施，分析，モニタリング，商品開発等を行う。

2) 学外との連携体制

学外の組織体制は，地方自治体，医療機関・施設，地域住民，企業・団体，NPO等である。これらの組織と本学は，2014年発足の「住民と共に創るセラピーアイランド 日本健康・環境セラピー学会」の活動実績から，地方自治体，地域住民，その他関係団体等との連携・協力体制が整っている。さらに，本事業のブランディング化を推進するために医療機関・施設，企業・団体等との連携を拡大する。

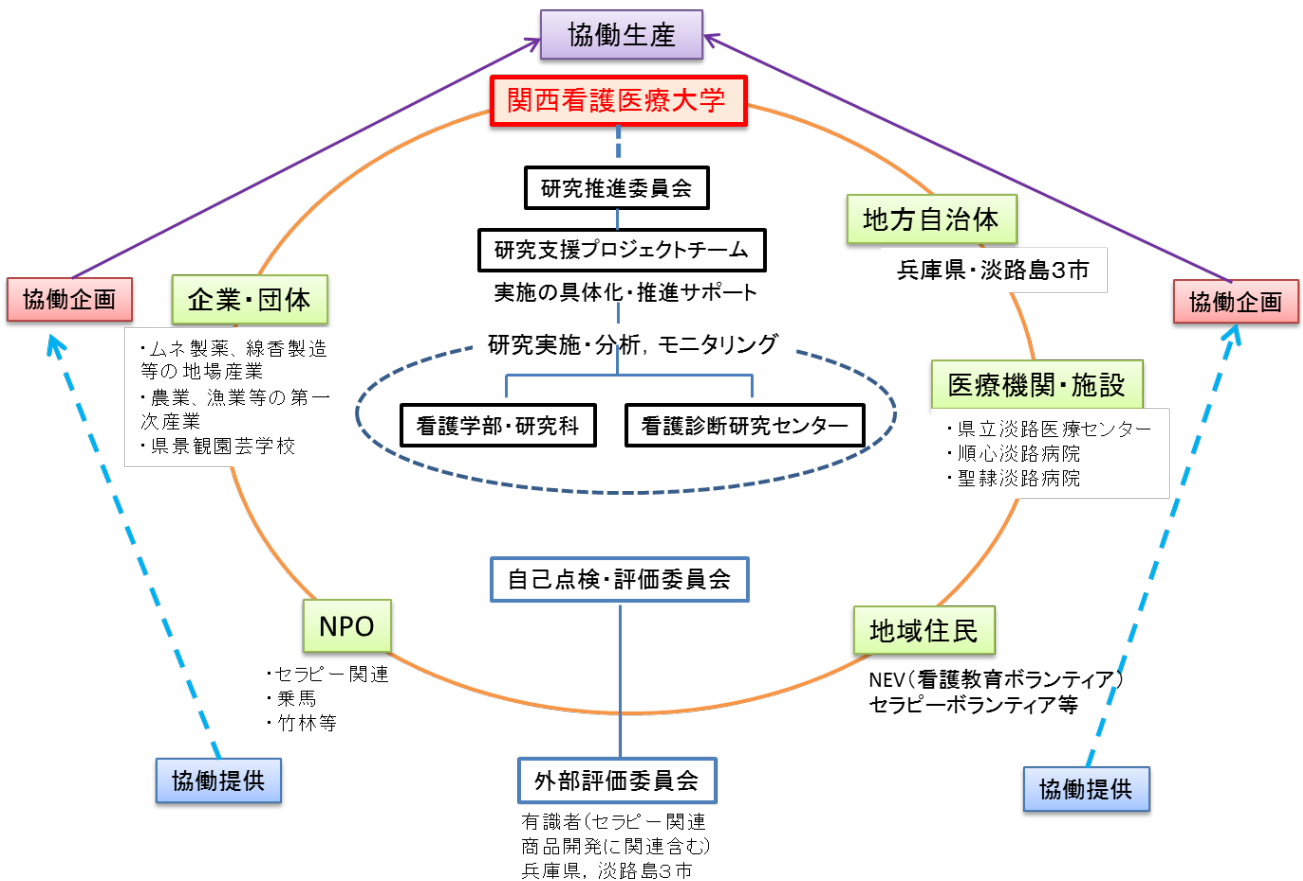
3) 自己点検・評価体制

本事業に係る自己点検・評価は，「研究プロジェクト自己点検・評価委員会」（研究科長，学部長，学科長，図書館長，看護診断研究センター長等）において，事前の評価指標の設定，事後評価による効果の検証，次の研究計画への反映等，PDCAサイクルを整備している。

4) 外部評価体制

本事業の外部評価を受けるため，「外部評価委員会」を設置する。委員構成は，兵庫県，淡路島内3市，セラピー関連学外有識者，商品企画開発に関わる学外有識者等とする。評価内容は，年度計画の実施状況と目標達成度，次年度計画の内容等である。外部評価委員会は，事業期間中原則年1回開催し，3年終了時に中間評価，5年終了時点で最終評価を行う。

ブランディング事業組織



4. 年次計画（2ページ以内）

平成28年度	
目標	事業拠点を本学に開設し、淡路島のセラピー資源の発掘、セラピー活用支援モデル（以下モデルと記す）づくりのための学内施設の開設準備、学内のセラピーサークル（以下サークルと記す）創設と活動、年次目標達成度の内部評価・外部評価の実施
実施計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 島内のセラピーと資源を地域住民・セラピー関連NPO団体等と協働し発掘 2) モデルづくりのための学内及び学外（公共未使用施設）施設開設に向けた準備 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設設備の検討と施設案作成 (2) モデルづくりに必要な専門的な知識と技術獲得のための専門家による研修会開催 3) 学内に淡路島の自然と資源を活用するサークルの立ち上げと顧問の選任。看護診断研究センターの研究部門と協働し、サークル活動前後で気分尺度、心理的ストレス尺度等の尺度を用いた評価 4) 事業の内部評価および外部評価を行い、事業プランや実施方法の有効性、目標の達成度等を検討し、より効果的な事業の運用に向けた具体策の策定と次年度への反映
平成29年度	
目標	発掘したセラピー資源の効果の検証・公表、学内モデルの運用案の策定と施設開設、学外施設の開設準備、サークル活動と効果検証の継続、年次目標達成度の内部評価および外部評価の実施
実施計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 発掘したセラピー資源の効果的な実施方法と効果を検証し、その結果を「淡路島内セラピーマップ」等として作成、公表 2) 学内モデルの運用と開設 <ol style="list-style-type: none"> (1) 認知症予防、緩和ケア、妊娠・出産・育児に係る方のためのセラピー技術、指導、サポート方法等の専門家による助言と研修 (2) 看護診断研究センター研究部門、本学の教員（地域、老年、母性・助産、小児看護学等）と協働し、セラピーの実施と効果検証 3) モデルの実施場所となる学外の公共未使用施設の施設開設準備（改修） 4) サークル活動と効果検証の継続、経時的変化の明確化 5) 事業の内部評価および外部評価を行い、達成度の質の検討と次年度からの学外での効果的な事業運用に向けた具体策の策定
平成30年度	
目標	学外の公共未使用施設を用いたモデルの実施と効果の検証、そこにおける本学の実習の検討、セラピー資源の評価をもとに商品化に向けた検討、サークル活動と効果検証の継続、年次目標達成度の内部評価および外部評価の実施、中間報告書作成
実施計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 学外施設におけるモデルの実施と効果の検証 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学外施設の開設と地域への広報 (2) モデルの実施（セラピー、相談・教育）と利用者に対する効果の評価 2) 地域、老年、母性・助産、小児看護学等の実習の検討 3) 発掘・検証したセラピー資源の商品化に向けた協働企画開発組織の立ち上げ <ol style="list-style-type: none"> (1) 大学・企業/団体・医療機関/施設・地方自治体がメンバーとなる組織の立ち上げ (2) 商品開発、商品化等に係る専門家の助言と研修 (3) 商品の企画開発案の検討と試作品の作成 4) サークル活動と効果検証の継続、経時的変化の明確化 5) 事業の内部評価および外部評価を行い、新たに開始されたセラピー商品の開発等に関する方向性の確認 6) 中間報告書作成

平成31年度	
目標	セラピー関連商品の試作品の効果の検証をもとにした 商品化 ，学内外モデルの実施とその効果の検証の継続，学外モデル活用施設での学生の実習とその効果の検証，サークル活動と効果検証の継続，年次目標達成度の内部評価および外部評価の実施
実施計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 開発された試作品の効果の地域住民による検証 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域住民による試作品のモニタリングと尺度を用いた評価 (2) 評価結果を基に試作品の改善と商品化の決定 2) 学内外モデル施設での実践，利用者の評価 3) 学外モデル施設での実習目標到達度等の検証と実習場の開発 4) サークル活動と効果検証の継続，経時的変化の明確化 5) 事業の内部評価および外部評価を行い，事業プランや実施方法の有効性，目標の達成度等を共有・検討し，事業目標の達成に向けたPDCAサイクルに乗せる
平成32年度	
目標	セラピー関連商品の市場での販売，学内外モデル施設での実践の継続と評価，セラピー能力を有する看護専門職者の育成，学外モデル施設での実習と効果継続検証， セラピーと看護を融合した看護教育カリキュラムの開発 ，サークル活動とその効果の経年的検証，事業目標の達成度の総括と，内部評価および外部評価の実施，最終報告書の作成
実施計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) セラピー関連商品の販売と商品の効果および利用者満足度の評価 2) 学内外モデル施設での本学学生の実習と効果の経時的検討 3) 2)の結果に基づいたセラピーと看護を融合した看護教育カリキュラムの開発 4) サークル活動のセラピー効果の検証（年度別）及び看護教育カリキュラム開発への反映 5) 学内外モデル施設で働くことができるセラピー能力を有する看護専門職の育成プログラムの作成 6) 研究成果の全国の看護教育機関等への発信 7) 最終の内部評価および外部評価の実施，事業目標の達成と課題の明確化 8) 最終報告書の作成と公表